

目黒支部プロデュース 沖縄プロジェクト 平和ツアー2019.



伊江島の「やすらぎの家」の前で。ここは平和を語る場所です



「平和丸」に乗って辺野古埋め立て現場に向かう

目黒支部を中心に、港、新宿、渋谷、めぐろ平和委員会の24人の仲間と2019年6月27、29日の3日間、「沖縄プロジェクト平和ツアー2019」を行いました。この取り組みは3回目。今回は伊江島、辺野古新基地建設現場などを訪れ、沖縄の歴史と今を学び、基地反対でたたかう人々に連帯する意志も示してきました。7月25日には目黒支部会館で報告集を開催。報告集の中から3人の方のレポートの一部を紹介します。

「平和の武器は学習」 月向分会・佐藤義光さん

- 27日(木)** 普天間基地、嘉手納基地見学
- 28日(金)** 伊江島(ガイド・平安山さん) 辺野古/キャンプシュワブゲート前抗議行動
- 29日(土)** 辺野古/「平和丸」乗船、海から抗議行動

伊江島で米軍の基地問題に取り組んでいる方から「平和の武器は学習である。平和の最大の敵は無関心であり、戦争の最大友は無関心である。理解することは力であり、平和の学習とは体験することである」と、声をかけていた。

一度壊された海は二度と戻らない。私たちにできることは沖縄の人に寄り添いできることをみんなと一緒に考える事ではないか。

優しいさもらった 柿ノ木八雲分会・千葉一郎さん

初日の夜、地元食堂で、みんなで食事をした。少し騒がしいと思いき、店の人が「お騒がせして御免なさい」と声をかけた。」「大丈夫ですよ」と笑顔で言ってくれた。料理出すのが遅く御免なさい。」「こちらの方が恐縮した。」「夕コボールを皆さんで」とサー

3日目、辺野古新基地を海から視察、この1年間で一挙に進んでいることに本当に驚いた。ここでも海上保安庁の人達も穏やかだ。平和丸の船長さんがお互いの立場を考えて運動をします、地元で運

午後から美ら海水族館まで、足を延ばした。優雅に泳ぐシンベイサメに島人が重なった。何となく寂しくなってきた。この国は、この優しさにつけ込んで、基地を作った、優しさにつけ込んで辺野古の海を埋め立てる。この国は本当に大丈夫なのだろうか。日本国民としてはすかしい。

基地が発展を阻害 目黒中央分会・本宮顕自さん

辺野古埋立搬出入ゲート前で座り込みを体験しました。沖縄県から工事差し止めを受けているにもかかわらず工事妨害だの不法占拠だのと、連日沖縄防衛局並びに警察との小競合いを傍観して工事を一分一秒でも遅らせる

ことごとくいしか世論に訴えることができません。むなしさを感じました。しかし沖縄の民意が尊重されているなら、頑張りようがあると思うようになります。先日のハンセン病判決で長年にわたり訴え続けたことで政府が和解に至ったことは、決してあきらめない強い心の大切さを私たちに示したと思います。



土砂を搬入する車両に向かって抗議

いる所と海岸付近では基地が随所にあり道路が迷路になって復興の妨げになっていきます。町中の基地は経済効果の阻害要因となるだけでなく危険度もまし、有事に標的になるなど米軍を直ちに撤収させてこそ真の平和と繁栄がなされるのでしょ。

所沢基地に残土野積み 有害物質による汚染の疑いも



所沢通信基地前でプラカードを掲げて土砂搬入に抗議する市民

この問題は今年1月半ば、米軍から所沢市に出された歩道切下げ工事の施工申請。市が防衛省北関東防衛局に事業内容確認のため照会したことで、横田基地の工事

根っ子は安保、日米地位協定

日本平和委員会常任理事の平山武久さんは、残土問題の直接の原因は横田基地へのオスプレイ配備にあるという。そのための施設建設が必要になり工事が始まった。きっかけはオスプレイだが、実行するうえで日米地位協定

基地問題を抱えているのは沖縄だけではない。今、2月7日、市民、市、市議会で作る「所沢市基地対策協議会」は、北関東防衛局長宛に中止要請書を提出。しかし、なし崩し的に4月12日に搬入が開始される。



5mも積み上げられた残土

7月16日、所沢平和委員会の呼びかけで、米軍所沢通信基地の前には市民ら約30人が集まり、「やめて!土砂の搬入」などと書かれたプラカードを掲げて、スタンディングで抗議。所沢平和委員会の大山茂樹代表は、「再三中止を申し入れたが聞き入れられず、あんなに高い山ができてしまった」と、フェンスの奥の残土を指さした。そして、かねてより有害物質の流出等で安全性が疑問視されている横田基地の土砂について、「米軍の土壌汚染調査は、国内法で定められたよりも少ない箇所、肝心の土砂ではなく周辺部分しか調べていない」と憤る。